

# CO<sub>2</sub>レーザーによるアレルギー性鼻炎の治療

耳鼻咽喉科

副部長  
八川公爾  
はちかわこうじ

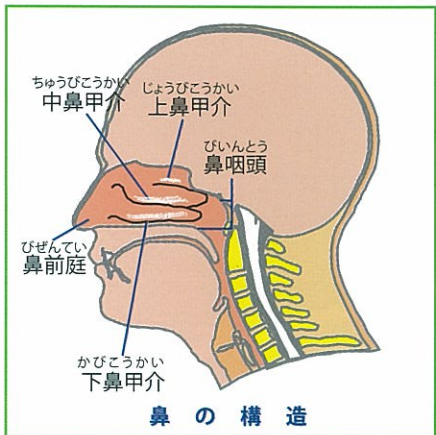
大掃除をして向こうが見えなくなるくらいたくさんほこりの埃が舞い上がっている中でも、いつもと同じように普通に呼吸をしていたら埃の微粒子が大量に気管や肺の中に入ってきてしまうため、肺は目詰まりを起こしてしまいます。好ましくない侵入者に対して、くしゃみはこれを放り出し、鼻水は洗い流し、鼻詰まりは侵入を阻止しているのです。しかし現実にはアレルギー性鼻炎の持ち主にとって鼻の各症状はつらいものであります。スギ花粉や埃に対するアレルギー性鼻炎は鼻の「過剰防衛」反応といえますが、大事な「防衛」の部分は残して「過剰」の部分のみ押さえるというのはなかなかの難題です。

外来通院でできる対抗手段としては、

●薬物療法  
症状の強い時に薬を飲んだり、鼻にさしたりする。症状が再燃すればまた薬を使うことになる。これが長期にわたる。

●減感作療法  
アレルギー反応を引き起こす物質（アレルギー）埃、花粉などを、ごく

少量から少しずつ量や濃度を上げながら週1〜2回ずつ注射してゆく。根治的治療法だが、年単位で注射していく必要がある。時間と手間がかかり、注射も痛い。



鼻の構造

●手術療法

鼻腔内で腫れている下鼻甲介の粘膜をはさみで切り落とす切開手術や、あるいは粘膜を剥離して下鼻甲介の芯になっている骨を切り落とす粘膜下甲介骨切除術がある。入院が必要で、局所麻酔あるいは全身麻酔下に行われる。すべての人に適用できるわけではない。が挙げられます。

こういった中、1996年レーザーによる鼻粘膜焼灼術が保険適応となりました。アレルギー性鼻炎で困っている方にとって、原因となる物質が「鼻の粘膜」に付着するとアレルギー反応が起こるので、粘膜の性質を変化させ症状を改善することを目指します。レーザーにはCO<sub>2</sub>、Nd-YAG、KTP、半導体などいろいろな種類があり、それぞれに長所短所がありますがこれは専門的な話になりますので割愛させていただきます。当科にはCO<sub>2</sub>レーザーが配置されています。レーザー手術の長所は、痛みや出血が少ない、入院が不要、症状再発時に反復して手術が可能なこと。短所は、煙やにおいがある、レーザー光から目を保護する必要がある、1回のみでは不十分で追加照射が必要な場合があることなどがあります。また症状が粘膜の問題だけではない方もいますのでレーザー手術の対象になるかどうかの事前診察は欠かせません。



実際の手術方法はそれほど難しくありません。まず耳鼻科の診察を行いレーザー手術の対象となるかどうかを検討します。次に採血検査など必要な準備をした上で事前に打ち合わせた予定日に外来へ来ていただきます。手術前に麻酔薬を浸したガーゼを鼻の中しばらく留置して薬を両鼻の粘膜に行き渡らせておきます。この段階ではまだ鼻の中に麻酔はかかっておりませんので、むしろ麻酔のガーゼを入れ込む処置の方が痛とおっしゃる方もいます。時間を見計らってガーゼを取り除き、鼻の穴から内視鏡とレーザー照射装置（どちらも細くて長い棒状）を入れて、内視鏡で見ながらレーザーで鼻の粘膜表面を「焼いて」いきます。鼻の粘膜すべてを焼き尽くすわけではなく、症状が出て困る部分を焼きます。そして止血処置をすれば手術は終了です。

レーザー手術は術後すぐに効果が出るわけではありません。手術では鼻の粘膜を「火傷」させますので少なくとも1〜2週間、鼻の粘膜には痂皮（かさぶた）がくっつき鼻の中が腫れあがって鼻は詰まります。また、かさぶたを無理に剥がすと鼻出血を起こします。術後しばらくは鼻をそつとしておいて後日再診いただき、かさぶたを取り除いて鼻を通

すようにします。この後、粘膜の腫れも引いてきますので段々と効果が上がってきます。ですから、スギ花粉症の方にレーザー手術を行う場合、花粉シーズンの直前や中には行わず、シーズンオフあるいはせめて花粉が飛び始める1か月前までくらいには手術を終えておくようにします。

手術の効果やその持続期間については残念ながら個人差があります。薬を全く使わずに済む方、症状のひどい時は薬の併用が必要だが以前よりは楽な方、1回の手術で相当年に渡って効果が持続する方、毎年（に近く）追加手術を行っていく方（ただしこの中には効果は十分であるが「以前の悪夢のような苦勞を繰り返したくない」方も含まれています）などなどです。手術を行った側、受けた方々それぞれの思惑や評価の仕方がいろいろありますが、おおよそ7割の方には「効果があった」と評価していただけているようです。

薬を飲んでも、マスクをしても、家中を掃除しても、なかなかうまくいかないアレルギー性鼻炎でお困りの方にとって、一度は検討するに値する方法ではないかと存じます。

